

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472600921
法人名	特定非営利活動法人 まごころポッポの会
事業所名	高齢者グループホーム まごころポッポ
訪問調査日	平成21年2月6日
評価確定日	平成21年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1472600921
法人名	特定非営利活動法人 まごころポッポの会
事業所名	高齢者グループホーム まごころポッポ
所在地	228-0814 相模原市南台1-3-12 (電 話) 042-749-0919

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.6 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48~52,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1400 円		

(4)利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	8 名
要介護1		名	要介護2	1 名
要介護3	7	名	要介護4	1 名
要介護5		名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 77 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 昌栄会 相武台病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体はNPO法人のまごころポッポの会で同NPO法人はこのグループホーム(認知症デイ、ショートも対応)以外にもデイサービス、配食サービス、訪問介護サービスを同じ相模原市内で展開し、デイやショートを通じて馴染みながらの入所も目指している。ここ高齢者グループホームまごころポッポは平成12年3月、グループホームとしては最初の段階に設立されている。2階建て住宅で、1Fが元工場、2Fが大きめの住宅であったものを改築して、1F3室、2F6室の1ユニットとなっている。介護計画はワーカーのレベルアップも狙う意味で、個別の担当者が作成し、カンファレンスで管理者、ケアマネジャーが指導して、ご家族の意見を加味して完成する方式で行っている。介護計画は長期・短期・夜間・暫定・本計画があり、目標は基本的にクリアを目指し、出来なかった場合には視点を変えて達成を目指している。利用者さんにも目標を課している。この利用者は全員アクティブでありADL低下が目立たないのがすごい。理念には当初より「地域とご家族との架け橋になる」と明記し地域に密着した体制を保っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 取り組んだテーマは職員のレベルアップである。この場合かなり先進的でユニークなケアが実践されているが、先進は先進のマンネリはあり、マンネリを容認した上でのレベルアップをテーマとしている。打破のヒントはアセスメントにある。アセスメントの前提として良い発案があり、それを連絡ノートに書いて全員に周知し、発案者担当で長期に見守る、ここにレベルアップのヒントがある。マンネリは家族にもあるのでレベルアップのヒント・アイデアを出し皆でアクティブな介護計画を作り取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価の取り組みも前回同様、全員で自己評価を行い調査に臨んだ。職員は外部評価の意義を充分理解している。基本の姿勢は決まっており、ケアは最高のレベルにあるので課題は前述のマンネリである。問題は前述マンネリのブレイクスルーであり、自己評価はそのブレイクスルーの1手段と考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は相模原市の介護保険のトラブル発生にからめて約半年間活動を中断していたが再開することが出来た。メンバーは自治会長、民生委員、相模原市介護保険課、ご家族と事務局である。当ホームは平成19年3月14日に第1回を開催し、行政の関係では市職員と地域包括支援センターが分担すること、当ホームには相模原市の職員がメンバーとして参加してくれている。メンバーは自治会の方、民生委員、ご家族、相模原市の職員2名それに事務局で行った。各メンバーとは良好な関係にあり、唯一日程の調整だけは苦慮している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族にここでの介護が良すぎて「何故自分に出来なかったか」と嫉妬を感じると云って頂いた。これは介護職の勲章である。また通院については病気や身体について知ってもらい意味も含めて、ご家族に行き、検査結果の出る日は一緒に確認するようにしている。出来ることは自分でやり、多少のリスクはあっても普通の生活をしてもらうことを理解して頂き、ご家族もそれにより自立度が維持・向上していることで喜んでいる。ご家族も協力的でイベント時にはご近所の方々と一緒になって盛り上げて頂いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学生、中学生の行事への参加と訪問、小学校の文化祭、中学校の体育祭への参加、自治会行事への参加、ご近所の子供や職員の子供が遊びに来る、自治会のゴミ拾いへの参加、お花見への参加など近隣との交わりは深い。他のグループホームの実習生、専門学校の実習生の受入をしている。入居者の元お仲間の方のオカリナのグループや傾聴のボランティアの方が来て楽しませてくれている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を6項目に具体化し、実践している。職員はそれぞれロッカーに貼り、実行している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各自ロッカーに貼り、互いに前向きに取り組む中で、日々理念の実践に向けて努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の老人会に参加、行事等で地域の人々との交流を行なっている。ご近所の子供や職員の子供が遊びに来る、自治会のゴミ拾いへの参加、お花見への参加など日常的にも交流を持っている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、外部評価を実施する意義等を理解し、前回の評価を活かして今後のサービス向上に努めている。基本の姿勢は決まっており、ケアは最高のレベルにあるので課題はマンネリであり、自己評価はそのマンネリのブレイクスルーの1手段と考えている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は相模原市の介護保険のトラブル発生にからめて約半年間活動を中断していたが再開することが出来た。メンバーは自治会長、民生委員、相模原市介護保険課、ご家族と事務局である。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の方などについて、市との連携を図り、取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に一度「月刊まごころ」を発行し、入居者の状態や日常の出来事等を伝え、レシートも一緒に送っている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に意見や希望、不満等をうかがうようにし、会議を行い、向上していけるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限に抑えられるようチームケアを徹底し、他職員でフォローできる体制を整えている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回は必ず外部研修に参加させ、職員のレベルアップを図り、それを会議等で他職員へ伝達している。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの交換研修や、実習生の受入れ等で刺激を受け、サービスの質が向上できるよう取り組んでいる。常に他に先駆けた良いケアが出来るグループホームであり続ける努力を続けている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでにホームへ遊びに来ていただき、場の雰囲気やコミュニケーションを取り、馴染みながらサービス利用できるよう取り組んでいる。グループホーム以外にデイサービス等を行っており、これの活用も可能である。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思や希望を尊重し、一緒に何かを行なうことにより、支え合ったり、学んだりしている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から思いや意向を聞く機会を作り、把握し、それに沿った暮らしができるよう取り組んでいる。ここでは積極的に参加する、一緒にやる姿勢が元気で活動的なADLの維持に繋がっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員も用紙に記入し、会議等で話し合い、家族からも意見を聞き、本人の状態に合った介護計画を作成している。ご家族にここの介護が良すぎて「何故自分に出来なかったか」と嫉妬を感じると云って頂いた。これは介護職の勲章である。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっているが、必要に応じて計画の変更を図っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム以外にデイサービス等を行っており、必要に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族が安心して受診できるよう、医師と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師と話す機会を持ち、全体会議を行って今後の方針を決めている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所で管理し、プライバシーに配慮した声かけや対応に努めている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを崩さず、何をしたいか要望を聞き、希望に沿えるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食べたいものを聞き、メニューに加えたり、一緒に作ったり、食事中も楽しく食べられるよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯は決めず、希望やタイミングを図って、入浴を楽しめるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯等、日常生活に於いて利用者と一緒に楽しく行い、気晴らしに散歩や買い物等に出かけている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散歩や買い物等の外出ができるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が開けられない鍵は使用せず、自然体で生活が送れるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行ったり、地域の協力を得られるよう、日常生活において取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個々の記録に記入して職員全員が把握し、状態に応じた支援をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節が分かるような装飾や写真を飾ったり、トイレや浴室も家庭的な空間を作り、居心地良く過ごせる工夫している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、安心して生活できるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム まごころポッポ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市南台1-3-12
記入者名 (管理者)	佐藤 幸樹
記入日	平成 21年 1月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を6項目に具体化し、実践している。職員はそれぞれロッカーに貼り、実行している。	今後も継続して実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各自ロッカーに貼り、日々理念の実践に向けて努力している。	今後も継続して実施していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事務所デスク上に掲示し、誰でも見やすいようにしている。地域の人々にも回覧板等を利用し、ホームについて理解してもらえるよう努めている。	今後も継続して実施していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームでも行事やイベント等に來ていただき、隣り近所からも声かけ等をして下さり、日常的に付き合いを行なっている。	今後も継続して実施していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の老人会に参加、行事等で地域の人々との交流を行なっている。日常的にも交流を持っている。	今後も継続して実施していく。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢者がいつでも遊びに来られるよう、日常的に交流を持ち、相談等にも取り組んでいる。小中学校の行事にも参加している。		今後も継続して実施していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、外部評価を実施する意義等を理解し、前回の評価を活かして今後のサービス向上に努めている。		今後も継続して実施していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は相模原市の介護保険のトラブル発生にからめて約半年間活動を中断していたが再開することが出来た。メンバーは自治会長、民生委員、相模原市介護保険課、ご家族と事務局である。		今後も継続して実施して行く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の方について、市との連携を図り、取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等を利用して学ぶ機会を持ち、必要としている人に活用できるよう努めている。		今後も継続して実施していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を利用して学ぶ機会を持ち、ホーム内での虐待ゼロに努めている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約もしくは解約の際には職員2名以上で対応し、十分な説明を行い、不安や疑問点等の無いように取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に話す機会を作り、意見等を聞き、利用者の意見等を参考して会議を行い、運営に反映できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に一度「月刊まごころ」を発行し、入居者の状態や日常の出来事等を伝え、レシートも一緒に送っている。		今後も継続して実施していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に意見や希望、不満等をうかがうようにし、会議を行い、向上していけるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法、入居受入れ時等、必ず職員会議を行い、一人ひとりの意見や提案を聞き、反映させている。		今後も継続して実施していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応ができるよう、日中の職員の人数を確保しつつ、十分なローテーションが組めるよう努めている。		今後も継続して実施していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限に抑えられるよう、他職員でフォローできる体制を整えている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ年に一回は必ず行き職員のレベルアップを図り、それを会議等で他職員へ伝達している。		今後も継続して実施していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの交換研修や、実習生の受入れ等で刺激を受け、サービスの質が向上できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会等で職員のチームワークや個々に話しをする時間を設け、対応している。		今後も継続して実施していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別に面談する時間を作り、現状を把握し向上心を持って働けるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の経歴や現状について情報収集し、本人の求めていることを傾聴し、信頼関係を築いていけるよう努力している。		今後も継続して実施していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望や今後について等、聞く機会を作り、信頼していただけるよう努力している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度か来訪していただき、本人の状態や家族の要望を聞き、色々な方向性の対応を考え、支援している。		今後も継続して実施していく。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでにホームへ遊びに来ていただき、場の雰囲気やコミュニケーションを取り、馴染みながらサービス利用できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思や希望を尊重し、一緒に何かを行なうことにより、支え合ったり、学んだりしている。		今後も継続して実施していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や「月刊まごころ」等で入居者の状態等を伝え、どのような対応希望があるかを聞き、共に支え合っている。		今後も継続して実施していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	通院は家族で行なっていただき、本人と過ごす時間を作り、今後も良い関係が築いていけるようサポートしている。		今後も継続して実施していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は決めず、いつでも誰でも来ていただけるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士支え合って生活していけるようサポートし、関係を深めていけるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了しても、必要に応じて相談や支援をし、関係を大切にしている。イベント等の声かけも行なっている。		今後も継続して実施していく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から思いや意向を聞く機会を作り、把握し、それに沿った暮らしができるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴、環境等の情報収集の徹底に努めている。		今後も継続して実施していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活歴を参考にし、現状態に合った暮らしが送れるよう、現状を把握し、支援できるよう努めている。		今後も継続して実施していく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員も用紙に記入し、会議等で話し合い、家族からも意見を聞き、本人の状態に合った介護計画を作成している。		今後も継続して実施していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっているが、必要に応じて計画の変更を図っている。		今後も継続して実施していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別記録を使用し、日常の様子や気付いた点と詳細に記入し、情報の共有、実践に活かしている。		今後も継続して実施していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム以外にデイサービス等を行っており、必要に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防と連携を取り、地域の小中学校とも交流を図り、協力等得られるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所やケアマネと連携を取り、サービス提供や利用についての相談等、必要に応じて支援している。		今後も継続して実施していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとも必要に応じて相談や協力を得られている。		今後も継続して実施していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者本人、家族が安心して受診できるよう、医師と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の医師と連携を取り、相談や対応策等、治療を受けられるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護師に相談や、日常の健康管理について支援していただいたり、ホームへも来ていただいたりしている。		今後も継続して実施していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院関係者と連携を図り、情報交換や相談等を行い、対応している。		今後も継続して実施していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師と話す機会を持ち、全体会議を行って今後の方針を決めている。		今後も継続して実施していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族等の意見を含め、ホームで会議を行い、今後の変化やその対応についての検討や準備を行なっている。		今後も継続して実施していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最小限にダメージを抑えるために、本人の使用していた物等を自室へ置いたり、家族、本人から十分に話を聞き、対応に努めている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所で管理し、プライバシーに配慮した声かけや対応に努めている。		今後も継続して実施していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自己決定できるような対応を心がけて、思いや希望を表せるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを崩さず、何をしたいか要望を聞き、希望に沿えるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやお洒落ができるよう、個々に対応できるよう取り組み、美容院へも希望等あった際は、行けるよう努めている。		今後も継続して実施していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食べたいものを聞き、メニューに加えたり、一緒に作ったり、食事中も楽しく食べられるよう心がけている。		今後も継続して実施していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む嗜好に対し、一緒に買い物へ行って嗜好品を探し、日常生活が楽しくなるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を使用し、時間が空いている際はさりげない声かけで、自尊心を傷つけないよう対応している。		今後も継続して実施していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯は決めず、希望やタイミングを図って、入浴を楽しめるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を把握し、気持ち良く安眠、休息ができるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯等、日常生活に於いて利用者と一緒に楽しく行い、気晴らしに散歩や買い物等に出かけている。		今後も継続して実施していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、本人に支払いをしていただくなど、お金の大切さ等を忘れないよう支援している。		今後も継続して実施していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散歩や買い物等の外出ができるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりに行きたい場所等を聞いて出かける機会を作り、外部からの良い刺激を得られるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、利用者からの要望があった際には、必ず対応できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みのひとが気軽に訪問できるような雰囲気作り、工夫をしている。		今後も継続して実施していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、職員全員が把握しており、どんなときも身体拘束をせずに工夫して対応している。		今後も継続して実施していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が開けられない鍵は使用せず、自然体で生活が送れるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人ひとりが何処で何をしているか、職員間で連携して把握し、安全に過していただけるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	マニュアルがある。刃物等は目隠しするなどして対応している。		今後も継続して実施していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修等で知識を学び、対応できるよう努めている。事業所で報告書を作成している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがある。定期的に訓練を行い、対応できるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行ったり、地域の協力を得られるよう、日常生活において取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクに対し常に家族と連携を取り、利用者が抑圧感を受けずに暮らしていけるよう取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、昼、晩のバイタルチェックを必ず行い、体調変化に速やかに対応できるよう努めている。		今後も継続して実施していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関する目的、副作用等、職員全員が理解しており、症状の変化等に対応できるよう努めている。		今後も継続して実施していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬に頼らず、食事や運動で便秘予防、改善に取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアマニュアルがある。食後の歯磨き、週一回のコップや歯ブラシの消毒を徹底している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個々の記録に記入して職員全員が把握し、状態に応じた支援をしている。		今後も継続して実施していく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。研修へ行き、学ぶ機会を儲け、職員全員へ会議等で伝えている。		今後も継続して実施していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒等を定期的に行なっている。台所の大掃除も頻繁に行い、食中毒が起きないように努めている。		今後も継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には花壇や小物を置き、家庭的な雰囲気作りをして気軽に出入りできるよう工夫している。		今後も継続して実施していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節が分かるような装飾や写真を飾ったり、トイレや浴室も家庭的な空間を作り、居心地良く過ごせる工夫している。		今後も継続して実施していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階、二階にテーブルやソファなど置き、利用者一人ひとりが自由に過ごせるよう居場所の工夫をしている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、安心して生活できるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
	○換気・空調の配慮			

84	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内には空気清浄器を置いたり、居室は毎朝換気を行なう等、状況に応じて対応している。		今後も継続して実施していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かすため、段差等はそのままにし、安全に自立した生活が送れるよう職員間でサポートしている。		今後も継続して実施していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力を活かし自立して生活できるよう、さり気ない声かけや環境づくりの徹底に努めている。		今後も継続して実施していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作ったり、庭にテーブル、椅子を置き、室内だけでなく外でも楽しめるような空間作りをしている。		今後も継続して実施していく。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

室内で過ごすだけでなく外に出て刺激を受け、認知症の進行を防ぐと共に、身体機能の低下を防ぐ等に取り組んでいます。外出は県外等、沢山の場所へ出かけています。また、理念にもなっている、第二の故郷「家」になるよう、利用者・職員と一緒に生活を楽しむことを心がけています。毎日笑顔・笑い声が絶えません！とても良い「大家族」です。